

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。
②①に基づく取組み結果	今後数年間における消防職員の退職者増加を勘案しつつ、研修派遣者を選考し、人材育成に取り組めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図(対象をどうするのか)	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を修得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	消防職員5人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部機関への派遣を自粛したことにより、計画どおりの派遣ができなかった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	派遣率(派遣者数/派遣計画者数)	100	100	19	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	3,157	921	金額(千円)		内容	3,666	
	国支出金(千円)		677		消防学校等入校負担金		
	県支出金(千円)		168		技術講習会等負担金		
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	3,157	921				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害の増加及び複雑多様化に対応するため、継続的に知識及び技術の習得が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関による取得以外に方法はなく、救急救助体制の確立には必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初	0	R1からの繰越		
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正		現年分		
④未完了・非着手の理由	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防車両更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ、的確な活動ができる車両を更新整備する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ、的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、消防用自動車及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	救急自動車1台、資機材搬送車1台、指揮広報車1台を更新した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	車両更新率(更新台数/更新計画台数)	100	100	100	% 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	7,861	53,308	金額(千円)	内容		9,547
国支出金(千円)			52,536	備品購入費		
県支出金(千円)		4,559	685	手数料(無線機移設)		
市債その他(千円)		31,300	23	保険料(自賠責保険)		
一般財源(千円)	7,861	17,449	64	公課費(重量税)		9,547

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防用自動車更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を継続的に検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民の安全で安心な生活を守るため、消防用自動車等の更新は、継続していかなければならない。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	消防用自動車の更新	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	救急自動車1台、資機材搬送車1台、指揮広報車1台を更新した。	57,435	56,847	当初	57,435	53,308	R1からの繰越
				R1⇒R2繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-588		
				令和3年度への繰越額(単位:千円)			0

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団車両更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ、的確な活動ができる車両を更新整備する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ、的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、非常備用消防車両及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	非常備用消防ポンプ自動車(第5分団車両)を1台更新した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	車両更新率(更新台数/更新計画台数)	100	100	100	% 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	19,614	19,802	金額(千円)	内容	19,991	
国支出金(千円)			19,668	備品購入費		
県支出金(千円)	1,807	1,807	120	手数料(無線機移設)	1,807	
市債その他(千円)	13,200	13,300	8	保険料(自賠責保険)	13,400	
一般財源(千円)	4,607	4,695	6	公課費(重量税)	4,784	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防用自動車更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を継続的に検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民の安全で安心な生活を守るため、非常備用消防車両等の更新は、継続していかなければならない。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	非常備用消防自動車の更新	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	非常備用消防ポンプ自動車1台を更新した。	20,033	20,033	当初	20,033	19,802	R1からの繰越
				R1⇒R2繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由		令和3年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防指令業務共同運用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	市民の安全で安心な生活を守るため、本市を含む近隣10市と消防指令業務を共同運用する。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防指令業務	意図(対象をどうするのか)	本市を含む近隣10市と消防指令業務を共同運用する。
②事務事業の概要	消防指令業務共同運用の第2期整備として、本市を含む近隣10市による共同運用を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	令和3年2月1日から本市を含む近隣10市(市川市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市)による消防指令業務の共同運用が開始された。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	共同運用機器整備率	-	-	100	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	-	8,052	金額(千円)	内容		-	
国支出金(千円)			8,052	通信指令業務共同運用機器賃借料			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		8,052					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	令和3年2月1日から本市を含む近隣10市による消防指令業務共同運用が開始された。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	令和3年2月1日から消防司令業務の共同運用が開始になっているとともに、予算科目も消防事務に要する経費に移行しているため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	本市を含む近隣10市による消防指令業務の共同運用を開始する。	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	本市を含む近隣10市による消防指令業務の共同運用が開始された。	8,777	8,777	当初	8,777	8,052	R1からの繰越
				R1⇒R2繰越			現年分
③達成状況	完了						
④未完了・非着手の理由							
			令和3年度への繰越額(単位:千円)				0

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	鎌ヶ谷消防署改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	実施設計に基づき、老朽化した鎌ヶ谷消防署の外壁等の改修工事を実施する。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	鎌ヶ谷消防署庁舎	意図(対象をどうするのか)	外壁等を改修する。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷消防署の外壁等を改修し、建物の長寿命化を図るとともに災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	鎌ヶ谷消防署庁舎を改修し、災害活動拠点としての機能を確保することにより、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	鎌ヶ谷消防署外壁等改修工事の実施設計が完了した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	実施設計完了率	-	-	100	% 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	-	3,003	金額(千円)	内容		75,550
国支出金(千円)			3,003	実施設計委託		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)		2,200				56,600
一般財源(千円)		803				18,950

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	改修工事に伴い隣地住民への影響及び災害出場に支障が生じないよう考慮する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	消防庁舎は災害活動拠点としての機能を維持していくことが必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	外壁等改修工事に関わる実施設計を完了する。	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	外壁等改修工事に関わる実施設計が完了した。	4,380	4,380	当初	4,380	3,003	R1からの繰越	
③達成状況	完了			補正			現年分	3,003
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				0		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	予防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	予防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	須賀 智行			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	住宅用火災警報器の設置及び維持管理について、広報かまがやや市ホームページ並びに消防関係催物等で引き続き啓発を行う。また、建築確認や立入検査等により適正な消防設備の設置指導を実施する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	住宅用火災警報器の設置及び維持管理について、市の広報媒体を活用するとともに、消防関係催物等で引き続き啓発を行う。また、建築確認や立入検査等により適正な消防設備の設置指導を引き続き実施する。
②①に基づく取組み結果	住宅用火災警報器の設置及び維持管理について、広報かまがやや市ホームページでの啓発を実施した。また、建築確認等により適正な消防設備の設置指導を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・事業所・建築物・危険物施設	意図(対象をどうするのか)	①市民の防火意識の高揚 ②防火管理に係る認識及び技術の向上
②事務事業の概要	火災予防を推進するため、消防訓練時の指導や住宅用火災警報器の設置普及及び維持管理を啓発するとともに、建築確認時の消防設備の設置指導や、対象物の立入検査を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	住宅用火災警報器の普及率は継続的に啓発を実施した結果年々上昇しているため、引き続き啓発を実施するとともに、条例施行から10年以上が経過した設置済みの住宅へ点検、交換等、維持管理の啓発を実施する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	火災予防を推進するため、広報やホームページ等を活用し、住宅用火災警報器の設置普及及び維持管理を啓発すると共に、建築確認時に適正な消防設備の設置指導を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	住宅用火災警報器普及率	72.4	72.6	72.8	%	業務取得
	ii	消防同意数	90	67	52	件	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	2,574	3,091	金額(千円)	内容		3,528	
国支出金(千円)			531	感染症対策用消耗品等購入費			
県支出金(千円)			703	消防用備品及び感染症対策用備品購入費			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,574	3,091				3,528	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	住宅用火災警報器の設置後、10年を経過する住宅が増加することから、機器の点検及び更新について啓発する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	火災予防を推進するため、広報やホームページ等を活用し、住宅用火災警報器の設置及び維持管理を啓発するとともに、建築確認時に適正な消防設備の設置指導を実施した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由						
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底した講習を段階的に再開するとともに、感染状況を注視し、安心して受講できる環境を整え、継続的な講習を実施する。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全ての講習会を中止とした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用方法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当ができるようになる。
②事務事業の概要	救急車到着までの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により、実施方法の変更、講習項目が細分化され、今後、更なる受講者数の増加が見込まれている。開催方法については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、当面の間、人数制限や受講者1名につき個別の資器材を使用し、感染防止対策を徹底した講習会とする。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全ての講習会を中止とした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	救命講習修了者数	593	640	0	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	14,093	30,534	金額(千円)	内容		71,424	
国支出金(千円)			3,595	救急活動用医薬材料		46,100	
県支出金(千円)			6,334	感染症対策用備品			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	14,093	30,534				25,324	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することにより市民が安全に暮らせる社会に繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消火栓改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	当初計画では7基であったが、新たに5基の腐食消火栓について改修の必要が生じたため、計12基の消火栓を改修する計画に変更した。令和2年度は3基の消火栓の改修を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	令和3年度から令和8年度までの総合基本計画前期基本計画に基づき、計6基の消火栓を改修するうち、令和3年度は1基の消火栓を改修する。
②①に基づく取組み結果	優先度の高い消火栓2基の改修を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消火栓	意図(対象をどうするのか)	経年劣化により破損の危険がある消火栓を改修する。
②事務事業の概要	経年劣化により破損の危険がある消火栓12基を、優先度の高いものから計画的に改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	消火活動に欠かせない消防水利について、有事の際の使用に支障がないよう今後も維持管理を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	計画に基づき、周辺水利の状況等を踏まえ消火栓2基を改修した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	改修完了消火栓	2	3	2基	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	5,547	3,188	金額(千円)	内容	4,030	
国支出金(千円)			3,188	消火栓改修工事		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	5,547	3,188			4,030	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現在使用不能としている消火栓について、早急に改修を行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	消火活動に欠かせない消防水利について、今後も維持管理を行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	消火栓3基の改修	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	消火栓2基の改修を行った	4,135	4,135	当初	4,135	3,188	R1からの繰越	
③達成状況	未完了			R1⇒R2繰越			現年分	3,188
④未完了・非着手の理由	改修を計画していた3基の内1基の改修費用が、当初計画で算出していた費用よりも大幅に超過していたことから、周辺水利の状況等を鑑み優先度の高い腐食消火栓2基を改修した。			令和3年度への繰越額(単位:千円)				0



令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	一般	9	1	2	
施策	消防力の強化	担当課室	警防課			
		担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団施設の維持管理及び人員確保と装備の充実化を図る。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	消防団施設・車両・資器材の維持管理及び人員確保を図る。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、消防団訓練や出初式等が中止となったが、速やかな災害対応に備えるため、消防団施設や車両等の維持管理に努めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防施設、消防団車両	意図(対象をどうするのか)	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設等の機能維持管理を実施する。
②事務事業の概要	各種災害に出動して、地域防災の中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化による人口減少、産業構造の変化に伴う就業形態の変化、さらに地域活動の希薄化といった社会状況から、消防団を取り巻く環境は大きく変化している。また、消防団員の高齢化が進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	迅速な災害対応が出来るよう施設、車両、資器材の点検や整備等を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	88.7	87	85.9	% 業務取得
	ii	機械器具点検	474	478	476	人 業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	29,699	22,326	金額(千円)	内容	39,976	
国支出金(千円)			6,540	消防団員報酬	1,140	
県支出金(千円)			3,457	費用弁償		
市債その他(千円)			4,565	負担金		
一般財源(千円)	29,699	22,326	2,060	消防団運営交付金	38,836	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、さらに高まると予想できるため、継続して行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団装備品整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団員の防火衣について安全性、活動性に優れた防火衣への更新を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	消防団員の雨衣について、防水性、透湿性に優れた雨衣への更新を行う。
②①に基づく取組み結果	消防団員の防火衣について、安全性及び活動性に優れたものに更新した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団装備品	意図(対象をどうするのか)	消防団装備品について機能性等に優れたものに更新する。
②事務事業の概要	消防団員が効果的な活動を行うために、消防団装備品の充実強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域防災の中心的役割を担う消防団の活動は、今後さらに重要となることが想定されることから、引き続き消防団装備品の充実を図る必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	防火衣30着を更新した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	新型防火衣の配備数	30	45	30	着	条例定数分
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	4,198	2,772	金額(千円)	内容	743		
国支出金(千円)			2,772	防火衣			
県支出金(千円)	699	462					
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	3,499	2,310			743		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消防団装備品整備事業として計画的に装備品を整備する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に基づき、消防団装備品の充実強化を図る必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	防火衣の更新	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	防火衣を30着更新した	3,000	3,000	当初	3,000	2,772	R1からの繰越
③達成状況	完了			R1⇒R2繰越			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
令和3年度への繰越額(単位:千円)							0